



^ 5
696
2





秋目一

暮春	土	生石玉	土	盆の月	土	をとり	土
西瓜	土	花火	土	残暑	土	おぼ	土
秋風	土	忘扇	土	初嵐	土	處	土
雲霧	土	二百十日	土	稲葉	土	野分	土
連稻	土	為穂	土	木綿取	土	田刈	土
曉稻	土	后彼岸	土	初汐	土	八朔	土
初曳	土	放生會	土	所迂宮	土	鳴子	土
引板	土	桑山子	土	為水	土	淡路	土
落船	土	初紐	土	崩築	土	河鹿	土
沙魚	土	弁市	土	新は	土	構衣	土
新雪	土	お雪	土	處雪	土	冷	土
新酒	土	秋日和	土	長夜	土	秋虫	土

○植物之部

秋草	土	柿	土	葡萄	土	若菜	土
秋水	土	露若菜	土	秋雨	土		
桐一葉	土	柳ちり	土	多花	土	女帯花	土
木槿	土	葛花	土	留尾草	土	菰袴	土
蔓珠沙花	土	男へ	土	新衣	土	芙蓉	土
秋海棠	土	赤木香	土	萩	土	萩	土
蕎麦花	土	稻花	土	花のし	土	系瓜	土
瓢箪	土	蘭	土	芭蕉	土	花笠	土
核梗	土	芒	土	紫苑	土	野菊	土
鬼灯	土	雞頭	土	鳳仙花	土	蓼花	土
稻	土	芦の花	土	きく	土	尾花	土



今人五名能冬之部目錄

○降物之部

初雪	一	雪	二	雪吹	四	志中紀	四
初時白	四	時雨	五	うき丸	六	霰	六
子鳥	七	雪鳥	八	冬鳥	八	氷柱	八

○時候之部

初冬	十	冬至	十	神送	十	神苗守	十
神迎	土	養煉	土	子糖心	土	吹草祭	土
神楽	土	里神楽	土	干萩	土	建方忌	土
神余講	土	冬鳥忌	土	湯取裁	土	湯傳名	土
初冬	九	小春	九	冬月	九	師志	十

神和

○植物之部

梅	十	萩	十	冬梅	十	冬梅	十
山菜花	十一	ハツ手	十一	冬梅	十一	冬梅	十一
冬牡丹	十二	水仙	十二	梅尾花	十二	梅尾花	十二
冬菜	十三	冬菜	十三	石路花	十三	梅尾花	十三
梅	十四	冬梅	十四	算梅	十四	冬山	十四
梅	十五	梅	十五	大梅引	十五	冬山	十五
梅	十六	梅	十六	麦海	十六	冬山	十六
梅	十七	梅	十七	水鳥	十七	冬山	十七
梅	十八	梅	十八	水鳥	十八	冬山	十八
梅	十九	梅	十九	水鳥	十九	冬山	十九
梅	二十	梅	二十	水鳥	二十	冬山	二十
梅	廿一	梅	廿一	水鳥	廿一	冬山	廿一
梅	廿二	梅	廿二	水鳥	廿二	冬山	廿二
梅	廿三	梅	廿三	水鳥	廿三	冬山	廿三
梅	廿四	梅	廿四	水鳥	廿四	冬山	廿四
梅	廿五	梅	廿五	水鳥	廿五	冬山	廿五
梅	廿六	梅	廿六	水鳥	廿六	冬山	廿六
梅	廿七	梅	廿七	水鳥	廿七	冬山	廿七
梅	廿八	梅	廿八	水鳥	廿八	冬山	廿八
梅	廿九	梅	廿九	水鳥	廿九	冬山	廿九
梅	三十	梅	三十	水鳥	三十	冬山	三十

○生類之部

鷓鴣	廿一	鷓鴣	廿一	鷓鴣	廿一	鷓鴣	廿一
鷓鴣	廿二	鷓鴣	廿二	鷓鴣	廿二	鷓鴣	廿二
鷓鴣	廿三	鷓鴣	廿三	鷓鴣	廿三	鷓鴣	廿三
鷓鴣	廿四	鷓鴣	廿四	鷓鴣	廿四	鷓鴣	廿四
鷓鴣	廿五	鷓鴣	廿五	鷓鴣	廿五	鷓鴣	廿五
鷓鴣	廿六	鷓鴣	廿六	鷓鴣	廿六	鷓鴣	廿六
鷓鴣	廿七	鷓鴣	廿七	鷓鴣	廿七	鷓鴣	廿七
鷓鴣	廿八	鷓鴣	廿八	鷓鴣	廿八	鷓鴣	廿八
鷓鴣	廿九	鷓鴣	廿九	鷓鴣	廿九	鷓鴣	廿九
鷓鴣	三十	鷓鴣	三十	鷓鴣	三十	鷓鴣	三十

冬目二

大	廿六	浮屠	廿七	木兔	廿七	冬	廿七
有	廿八	有	廿八	暖	廿八	冬	廿八
初	廿九	速	廿九	絲	廿九	網	廿九
罽	三十	生	三十	坊	三十	河	三十
錦	三十	靴	三十	茶	三十		
○ 時之部							
活	三十	冬	三十	余	三十	扇	三十
子	三十	頤	三十	袋	三十	火	三十
埋	三十	火	三十	火	三十	湯	三十
冬	三十	炒	三十	口	三十	玄	三十
製	三十	修	三十	冻	三十	冰	三十
車	三十	滑	三十	納	三十	楮	三十

炭	三十	炭	三十	冬	三十	冬	三十
寒	三十	冬	三十	冬	三十	冬	三十
臘	三十	冬	三十	冬	三十	冬	三十
冬	三十	冬	三十	冬	三十	冬	三十
餅	三十	餅	三十	衣	三十	衣	三十
厄	三十	年	三十	年	三十	年	三十
行	三十	出	三十	去	三十	去	三十
掛	三十	大	三十	除	三十	年	三十
年	三十	冬	三十	除	三十	年	三十

形分百何千七歌

東京  
餘丁町  
百拾貳番地  
坪内雄藏

# 名月

今人五百題發句集

秋之部

ハ雲 東溟  
涉壁 千輅

輯

名月の事跡を思ふに  
名月や一里ありき 烟 上  
名月やしら湖水の照り返し  
名月や霧の中も 嘆をい  
名月の入山ありて 見えよけり  
名月や 橋を又ある川系を  
名月や 居のうけき 故人の上  
名月や 輝きて 志中ふ 文昭也

由誓 由誓  
沙鷗 沙鷗  
蛭山 蛭山  
素樸 素樸  
史子 史子  
甫旧 甫旧  
双鳥 双鳥  
鳳朗 鳳朗

名月やあるをさるる松をいぬ  
 吸くや阿の松 石の文 籍  
 名月や油の流るる月の清る  
 吸くや板打の年さ松のけ  
 名月や祝のさるる松の露  
 吸くやの庵くあるる海の家  
 名月やまの松のさるる  
 吸くや眼のつらるる松の奴  
 名月や思ひからるる松の舞  
 きらーのさるる松のぬるる月  
 きらーのさるる松のけるる月

大梅 得善 卓史 三岳 万頃 波同 其流 梅室 千輪 風朝 禾木

名月

名月

名月やあるをさるる松をいぬ  
 吸くや阿の松 石の文 籍  
 名月や油の流るる月の清る  
 吸くや板打の年さ松のけ  
 名月や祝のさるる松の露  
 吸くやの庵くあるる海の家  
 名月やまの松のさるる  
 吸くや眼のつらるる松の奴  
 名月や思ひからるる松の舞  
 きらーのさるる松のぬるる月  
 きらーのさるる松のけるる月

眉山 若非 月底 砺山 斗南 梅室 千輪 蒼虬 逢流 黄山



名月 蝕

月 見

名月の二枚つき〜おひきか  
りのま〜ひとむ心世を月の蝕  
蝕とれて暮ら〜ちや月の人  
音の〜ちとむ〜い〜ふ月

つす〜ちま〜ち〜お月見  
光〜ち〜あ〜お月の見  
入念〜まの〜は〜月見  
あま〜ま〜あ〜お月見  
輝〜ま〜者〜お月見  
お〜程の〜お〜月見  
〜木の下〜お〜月見

淑 芝  
丁 知  
萬 西  
大 梅

蒼 礼  
一 具  
水 舟  
溪 高  
桐 堂  
暮 菽  
風 朔

秋 月

月

澄〜〜あ〜お秋の月  
あ〜〜あ〜お秋の月  
新垣ハ〜お秋の月  
木〜水〜お秋の月  
仲秋や〜お秋の月

霜〜〜あ〜お月  
〜〜あ〜お月  
〜〜あ〜お月  
〜〜あ〜お月  
〜〜あ〜お月

卓 池  
木 木  
菴 山  
甚 山  
抱 像

沙 路  
山 外  
依 芝  
鼎 左  
僕 物

星雲少くもあきと秋のそと次すのそと  
との中ぬも月よりあきとる。秋のそと  
おのつらつら。秋のそと。秋のそと。秋のそと。  
秋のそと。秋のそと。秋のそと。秋のそと。  
秋のそと。秋のそと。秋のそと。秋のそと。  
秋のそと。秋のそと。秋のそと。秋のそと。  
秋のそと。秋のそと。秋のそと。秋のそと。  
秋のそと。秋のそと。秋のそと。秋のそと。

一佛三而雀岱芳芝眉第禾荃  
具兒江后年雲英石岳那木乳

秋のそと。秋のそと。秋のそと。秋のそと。  
秋のそと。秋のそと。秋のそと。秋のそと。  
秋のそと。秋のそと。秋のそと。秋のそと。  
秋のそと。秋のそと。秋のそと。秋のそと。  
秋のそと。秋のそと。秋のそと。秋のそと。  
秋のそと。秋のそと。秋のそと。秋のそと。  
秋のそと。秋のそと。秋のそと。秋のそと。  
秋のそと。秋のそと。秋のそと。秋のそと。

一佛三而雀岱芳芝眉第禾荃  
具兒江后年雲英石岳那木乳

初月夜

三日

初月夜秋意よふれは桂ぬ井  
若松のふとちり足て初月夜  
初月夜照るはかき星のうけ  
井の蓋を取てふれは初月夜

二日月やとをふと阿する稲の夫  
二日月をこしんぬや後一舟  
二日月や朝を核し置床山  
吹もれ一きぬのくや三日月  
二日月や抱てうせる縄まこれ  
二日月や門先掃て人もぬき  
押かふる雪はくま一三日月

風朗  
稲刈  
溪翁  
東隰

一具  
月底  
昇左  
玄子  
而后  
一肖  
卓池

待霄

十六夜

待霄のゆきある月の晴るぬ  
まの青也望を葉をふき子(は)  
待ちひのあらる葉あり月の秋  
まの青や山をふとあれて海の月  
待ちひや地ちちのふきる上り  
晴るくうを影も待一月の雲

いさちひや灯よりは雲言中  
いさちひや座敷せしき月ある  
いさちひや志たかぬくも言中  
いさちひや月さかちやてり流

逸淵  
運流  
風朗  
花明  
由誓  
千菰

梅言  
風朗  
荃礼  
卓池

后乃月

とうりへんせいさくふ月や後の上  
いさよひ七川一志の月おれ  
あつちをりあつちやう後月  
あつちのふたおれ後  
さうしてはさ同しおれつ  
刈株のふたおれ後月  
いさよひ七川一志の月  
あつちをりあつちやう後月  
あつちのふたおれ後  
さうしてはさ同しおれつ  
刈株のふたおれ後月  
いさよひ七川一志の月

一具  
千輪  
大梅  
岱年  
荻風  
溪高  
荻乳  
梅空  
一帰  
由誓  
千輪

龍

田  
姬

文月 葉月

人のんく人のあつちやう後  
あつちをりあつちやう後  
さうしてはさ同しおれつ  
刈株のふたおれ後月  
いさよひ七川一志の月  
あつちをりあつちやう後月  
あつちのふたおれ後  
さうしてはさ同しおれつ  
刈株のふたおれ後月  
いさよひ七川一志の月

露泉  
惟草  
梅空  
荻乳  
溪高  
荻風  
岱年  
大梅  
千輪

葉

文  
葉  
卓池  
大矣

八月廿一日 新橋 唯子 船の 花 松 翠

長月

十月の朔日 江戸 つかさ たり  
目を 河津 柳子 柳子 九月 身  
新橋 舟の 中へ 入る 九月 身  
赤い 色 あい 色 九月 舟の 山 赤  
手 新橋 舟の 中へ 入る 九月 舟

初秋

初秋の 水子 枝つ け 九月 舟  
十月 秋の 枝 折る 舟 柳子 舟  
初秋 舟 柳子 舟の 舟の 枝  
十月 秋 舟 柳子 舟の 舟の 枝  
十月 秋 舟 柳子 舟の 舟の 枝

十月 秋 舟 柳子 舟の 舟の 枝  
十月 秋 舟 柳子 舟の 舟の 枝  
十月 秋 舟 柳子 舟の 舟の 枝  
十月 秋 舟 柳子 舟の 舟の 枝

立秋

十月 秋 舟 柳子 舟の 舟の 枝  
十月 秋 舟 柳子 舟の 舟の 枝  
十月 秋 舟 柳子 舟の 舟の 枝  
十月 秋 舟 柳子 舟の 舟の 枝

丁 柳 赤 花 山 翠  
風 柳 赤 花 山 翠  
風 柳 赤 花 山 翠  
風 柳 赤 花 山 翠

秋の節

滯秋のつらさ秋の川役木身  
秋まや泣くまゝとなく川掃人懐  
秋の川や秋の川をさきその川

梅通  
蓬宇  
大梅

庭をけいさくせきみくうはの秋  
く秋の秋水庭へくくを免う那  
花開くさう志ほれてさきの秋  
明木のハスをもつあうけさ秋  
ふさき海子の風やさき秋  
秋をさめつらさやさ秋の秋  
眼をさめ秋の山奥さき秋

林曹  
得甚  
碓山  
夷則  
知風  
千輅

夕七

七夕やかきうらさ秋の晴さう  
たもさうやを後木梅のりうさう  
七夕や秋をさき秋の春  
たもさうやさきの山さあさう  
七夕や用たりさあさう  
たもさうの行さうやさあ  
七夕の秋をさきくさうさう  
たもさうや二能うさ素う  
七夕や志ほさうとめぬ産の春  
たもさうやをさきさあさう

夕七  
沙路  
節之  
湖山  
得甚  
井外女  
昇化  
一具  
風朝  
梅音

星 河 い

賞 小 袖

只一衣星のまゝあはれや 別れを乞  
ふまゝくも 伊豆の涼し 星の近  
きれきれ 志のこころ 祈り 望む  
星をまゝなるぬ 新や 男アを  
あゝ 夢の 折の ころ 心 清く  
をまれのき 在り 星の 恋  
何をまゝ 人の 望み 望む 望  
持る星の せも 夢 望む 望む

一衣のまゝ 小袖の けしき ぬ 徳の家  
ゆき ちけの あはれ せき せき せき せき  
あはれ せき せき せき せき せき せき

車池 丁志 波田 南溪 匝原 山谷 由誓 蒼礼

托儀 素瓌 ちうら

願 糸 梶 葉 天 河

糸のけしき けしき けしき けしき けしき  
糸の けしき けしき けしき けしき けしき  
糸の けしき けしき けしき けしき けしき

梶の葉や 水糸の とれ 夢の けしき  
のけしき けしき けしき けしき けしき  
梶の葉 けしき けしき けしき けしき

その川を けしき けしき けしき けしき  
夢の けしき けしき けしき けしき けしき  
夢の けしき けしき けしき けしき けしき

双鳥 小義 逸淵

若非 警水 蒼礼

梅室 山外 九義

籠 燈

唯一根光るるも亦一この川  
たききるる川より水やその川  
明ききるる川より水やその川  
あつらうも多々川に流るる河  
あつらうも多々川に流るる河  
あつらうも多々川に流るる河

燈籠を和名をえのする舟の奥  
あつらうも多々川に流るる河  
あつらうも多々川に流るる河  
あつらうも多々川に流るる河  
あつらうも多々川に流るる河

大橋 波文 若水 昇左 丸久吉 千鶴

蒼乳 逸洲 粗文 呂叟 祇白

高 切 籠

河岸所の世をうらなふとては  
ちとあつらうも多々川に流るる河  
あつらうも多々川に流るる河  
あつらうも多々川に流るる河  
あつらうも多々川に流るる河

史子 得基 得取 鳳朗 千鶴 山外 托儀 千鶴 松竹 花雪



手蘭盆

多角をきつたの梅の葉もさうせう  
月や灯や人や花の影もさうせう  
兄弟のもてあそびたるさうせう

車池  
逢池  
花少

花

梅待り春の影もさうせう  
せんたいや毎の陸も列れ色  
梅待り春の影もさうせう

梅香  
文鯉  
杜鰲

迎火

車馬や福風もさうせう  
迎火をさして梅香もさうせう  
迎火や梅の影もさうせう

梅香  
色見  
渡物

送火

おろしや梅の影もさうせう  
送火もさうせう

車池  
大梅

草市

草市のたつとさうせう  
戸も梅の影もさうせう

由誓  
省翁

魂祭

草の葉の影もさうせう  
ひさしや梅の影もさうせう

梅鳥  
花  
茶蘇

おろしや梅の影もさうせう

一具

魂

柵

柵 強

たす柵やまきさかたる人のまゝ  
魂柵や手の夜く子の寝り  
あたまのあまりお伽の丸良  
たすあまりし御ま解ま  
魂柵をあしほさあまり  
あたまよまあまりあまり

よらめ  
あまめ  
若人  
五木  
佛兄  
千松

柵のむらあまりあまり  
たす強やほつあまり  
柵強やまきさかたる客佛  
新巻一も七巻まき

風朝  
嘯谷  
小巻  
二三

墓

生身玉

盆 了 月

伐安き花を折ちあまり  
田の舟のまきし掃ちあまり

一 墓 首

客中も能あまり  
あまりのいれあまり  
あまりのあまり月やあまり  
あまりのあまりあまり

麻交  
逸淵  
護物  
千松

あまりのあまりあまり  
あまりのあまりあまり  
あまりのあまりあまり  
あまりのあまりあまり

宗古  
確額  
幻定  
心阿

老多歸苦此一也

東漢

聖王

秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也

由誓 月獎 野巢 素蓼 佛兄 恭里 了日 夷則 蓮丘 卓池

西瓜 花火

西瓜系  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也  
秋多歸苦此一也

梅言 晨支 西雲 禾木 有莖 松秀 抱德 悟草 松什 吉行

残暑

ふる人の眼さきむの意の意か  
まよふと観てものくも残暑  
多秋のたらくし秋若くは  
行とれん凡の字ゆも残暑  
環あふ葉の白ふらん暑  
汁の寒の出はるる秋の暑  
暑負ものん松若くは角  
古里へ移るよあやと  
夕鐘をさしいかうも角  
飛入る鐘の出るも角

松竹 鼎湖 斗蓬 波回 一具 梅窓 岳風 杜夢 大鵬

秋

向あつて暮を走つめう角  
拾ひ子と鐘も秋の意  
鐘よりうあさ若くは角  
若くは秋の意う角  
此意も後あつてう角  
立合り葉性の意をる角  
あつてん何れらん角

祖々 蓬陽 風朝 涼芝 素文 一月 由誓 岱年 小柯 若菰 葉類

秋

風

籬うけのさみ櫃や秋の風  
取のけし秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ

在 雙  
車 池  
一 具  
戸 籬  
院 多  
且 松  
嵐 外  
雄 額  
室 多  
氷 谷  
心 阿  
松 什

忘扇

初嵐

秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ  
秋のあや秋のあや秋のうせ

手 彼  
由 誓  
蕉 竹  
千 轄  
一 具  
漢 扇  
千 荷  
岱 年  
史 千  
川 ら



二百  
十日

取らるる二百十日の多事りぬ  
津の舟をたふすなりや稲の月

得菴  
松孫

稲妻やまきさのきぬの條のぬく

車池

いさなりまをこゝしにまをの枕うた

松什

稲妻やまきさのきぬのつきまを

嵐外

うさ目うら稲つまはまをまを

李且

稲妻やまきさのきぬのつきまを

蓮宇

稲妻

いさなりまをこゝしにまをの枕うた

ゆゑ

稲妻やまきさのきぬのつきまを

由誓

いさなりまをこゝしにまをの枕うた

板室

稲妻の初うけちりぬ稲妻の雲

五株

いさなりまをこゝしにまをの枕うた

一箇大

稲妻やまきさのきぬのつきまを

有

の

己

記

稲妻の初うけちりぬ稲妻の雲

大板

いさなりまをこゝしにまをの枕うた

抱像

稲妻やまきさのきぬのつきまを

成雨

いさなりまをこゝしにまをの枕うた

百畝

稲妻の初うけちりぬ稲妻の雲

南志

いさなりまをこゝしにまをの枕うた

由誓

稲妻やまきさのきぬのつきまを

千輅

いさなりまをこゝしにまをの枕うた

菴

稲妻の初うけちりぬ稲妻の雲

菴

連箱

のうきくひんひきあう穂や箱の畝  
速穂のちをききあへて穂の畝哉  
早穂のちをききあへて穂の畝哉  
よせの香や世のいよと穂の畝哉

完伍  
若非  
一具  
梅宮

穂穂

おぼろ子にけしあはる穂穂哉  
枝のちをききあへて穂の畝哉  
おぼろくと月子あはる穂の畝哉

獲物  
相人  
万頃

木  
取

休む月も休むのちをききあへて穂の畝哉  
おぼろくと月子あはる穂の畝哉  
おぼろくと月子あはる穂の畝哉

素行  
少兼  
蘭和

田  
刈

新穂のちをききあへて穂の畝哉

新穂

稲刈やちをききあへて穂の畝哉  
ちをききあへて穂の畝哉  
ちをききあへて穂の畝哉

下志  
菊甫女  
万頃

晚  
稲

穂のちをききあへて穂の畝哉  
ちをききあへて穂の畝哉

夕子  
得甚

後  
岸

門裏の窓にほのぼのんか  
りそと穂のちをききあへて穂の畝哉

月貨  
万頃



初汝

初汝や星のくもを橋の上  
より伊や龍の尾を渡り家  
初汝や鷹の飛ぶ声は清く

五玉  
万頃  
斗玉

八

朝

八朝のそよ風はけり物も清く  
八朝の夢もさびしき所の方  
八朝やあまの穂を結ぶ  
八朝やあまの穂を結ぶ

月庭  
赤木  
砥山  
卓池

鳥曳

鳥曳のそよ風の音はけり  
鳥曳のそよ風の音はけり  
鳥曳のそよ風の音はけり  
鳥曳のそよ風の音はけり

紫金  
吏川

放生會

放生會のそよ風の音はけり  
放生會のそよ風の音はけり  
放生會のそよ風の音はけり  
放生會のそよ風の音はけり

赤池  
松原  
茶野  
赤池

佛宮

佛宮のそよ風の音はけり  
佛宮のそよ風の音はけり  
佛宮のそよ風の音はけり  
佛宮のそよ風の音はけり

風洞  
史千

赤

赤のそよ風の音はけり  
赤のそよ風の音はけり  
赤のそよ風の音はけり  
赤のそよ風の音はけり

梅道  
未木  
万籟  
在示

引板

強をこく行ももびく鳴るも  
川鳴る子なきを教へり出るもびく  
義の事向ふもなきをり東鳴る  
子のりなきを教へり出るもびく

井資  
由誓  
梅意  
千結

葉子

心あし月あつる人の川板の音  
義の事向ふもなきをり東鳴る  
子のりなきを教へり出るもびく  
志かすく義の事向ふもなきをり  
子のりなきを教へり出るもびく

護物  
壽堂  
逢源  
由誓  
梅意  
卓池

水

葉とれて多足のもきりし身  
千魚り葉の事向ふもなきをり  
子のりなきを教へり出るもびく  
はやくと海深きはぬるも水  
流れては流るも流るも水

連升  
東漢  
一具  
依  
依  
依  
依  
依  
依  
依  
依

淀船

淀船のりきりふりあられし船は

粗文 琴推

落船

落船をいそやふゆり  
後見まゝの船のよきや道なきし

大勝 松言

初鞋

初鞋のりきりふりあられし船は

由誓 得西

崩築

崩築のりきりふりあられし船は

松言 祖々 由誓

河鹿

河鹿のりきりふりあられし船は

万頃 葉野

沙魚

沙魚のりきりふりあられし船は

丁知 言々

舟市

舟市のりきりふりあられし船は

由誓 紫金







柿

葡萄

かゝり深きを柿のあふひ  
きむ月よ木の柿たゞけり  
柿多知それ古意の 着ひ葉  
を紅くしては深柿の本葉と  
柿可異て出たり 醉人多  
深柿もみこころの 金う  
柿とるをとお柿さそわ柿  
赤あえりうらなる ぬ庵の柿  
ふりくとをぬきけり  
浅やくと深りなをぬき

由 葡萄  
松 竹  
水 月  
江 山  
波 回  
昔 之  
千 熟  
得 梅  
里 女

着 蓑

秋の水

刈 處

着蓑をこころもをきき  
一むらんを年暮の末葉  
是をけを二人とて

祖 文  
弄 化  
而 后

はのりれハ月うさす秋の  
水のぬるけのたすや秋の水  
水のぬるけのたすや秋の水  
水のぬるけのたすや秋の水

車 池  
護 物  
沙 路  
平 山

とらつきの酒屋ハ  
ききれハ水もたすや  
さすやハ水もたすや

梅 今  
由 誓  
一 貞

秋雨

春を去るも秋の分は晴れ秋の  
晴き日の又なきものや秋の  
降ゆき字をば夜半の秋の雨  
秋のや道をもたぬぬ豆の魄  
梅雨のやりの言をれと武左海  
手をもつる笠の換り秋の  
杉屋のやいづれも春と秋の

大 梅  
若 非  
依 芝  
船 村  
表 則  
阜 池  
一 具  
一 月  
唐 龍  
玄 分

桐葉

柳散

ゆづりをうけてるう桐一葉  
桐一葉のまゝまゝ後まはりけり  
散の音ももよほれて一葉散  
桐一葉あるをうけてひひ葉  
河津のやうな葉を柳よりたある  
門柳も扇れはあつる一葉ある  
まをまをうけてるう桐一葉  
扇のまの柳もあつるうの葉

是 誠  
依 芝  
葉 新  
名 見  
大 梅  
未 陰  
由 誓  
黄 山  
冬 岐  
山 石





木 槿

日御の光を借る木槿の  
花はかたじけなくも秋の  
木槿をみれば花あるも  
咲くも木槿のさきや木槿  
さきや木槿のさきや木槿  
一甲のほろ木槿さきや

九葉 爆 左 波 而 蒼 札

葛 花

葛の花をみれば月を  
葉のうけよ木槿の  
さきや木槿のさきや木槿  
さきや木槿のさきや木槿  
さきや木槿のさきや木槿

一 古 松 古 札 古

藤 袴

藤の花をみれば藤  
花をみれば藤の花を  
花をみれば藤の花を

雲 鼎 左 袴

尾 料

尾料の花をみれば  
尾料の花をみれば  
尾料の花をみれば

去 和 料 人 樹

蔓 珠 沙 花

蔓珠沙花の花を  
蔓珠沙花の花を  
蔓珠沙花の花を

一 雀 蔓 具 雙

石 魚

石魚の花をみれば  
石魚の花をみれば  
石魚の花をみれば

風 石 依 不 洋

葦 牛 花

新鳥や葦の蔓の如き人を中かき  
葦やあつらさけとて新鳥の  
あきかやの葦や中身を咲たよ  
新鳥の如くゆき新鳥の如く  
葦の一を身はく名妙の  
あきかや種 約米も花の  
新鳥や 秋の風の吹の  
葦や 志あめたよ中かき  
あきかやさくあつらさけ  
葦や 早まのあつらさけ  
新鳥や 新鳥のあつらさけ  
あきかや 新鳥のあつらさけ

板倉 一肖 柏実 有音 夷則 湖山 冬江 岳手 一具 風韻 卓池

芙蓉

葦の葉を つむ表や 新鳥の  
あきかやの 新鳥のあつらさけ  
あきかやの 新鳥のあつらさけ  
新鳥や 医者 垣根の 町の  
あきかやの 新鳥のあつらさけ

斗送 素樸 且松 大松 千秋

あきかやの あつらさけ  
あきかやの あつらさけ  
あきかやの あつらさけ  
あきかやの あつらさけ  
あきかやの あつらさけ  
あきかやの あつらさけ  
あきかやの あつらさけ  
あきかやの あつらさけ

林曹 粗文 蘭水 卓池 漢物

あきかやの あつらさけ 秋海棠



# 萩

その  
よか

浮れしハチヤ乾きく萩の花  
ゆりくハ萩をてきき如極の萩  
是はしりあきくき萩の花

史千  
風朗  
千執

あきくうま船ふあや萩の声  
きりれハ志身らや萩のこゝろ  
夜ハあのかさうのぬ萩の音  
ゆまか萩ハあやなきの志  
あきくははら萩の萩の音

梅香  
溪島  
岳非  
風洞  
馬沼

あきく門を嘆きうけの浮れ萩  
池のけしあやうけや萩の花

木本  
梅香

あきく先をみかやうけの志  
あきくはら萩の萩の音

善花  
千執

# 稲の花

あきくやうま萩の志き萩の志  
いよの志先ハ安塔の志きうま  
萩の音や花美ハ志きうま  
あきくの志きうま萩の志  
あきくはら萩の萩の音  
あきくはら萩の萩の音  
あきくはら萩の萩の音  
あきくはら萩の萩の音

龍風子  
掉江  
波同  
海芝  
幻芝  
善泉  
善礼  
水休

戸のゑん

糸瓜

いんをのらひはあやをいじ  
あ月の中はほろけりやをいじ  
是のまゝにまのけりやをいじ  
新夕もあきとれあやをいじ  
あ花やほろけりやをいじ  
下つてあやをいじやをいじ  
まむらやほろけりやをいじ

閑形 而 后 斗 采 冬 枝 月 坡 夷 則 蒼 亂 得 菴 蓬 宇 洞 天

瓢

ら

芭蕉

十の十の瓢 形あきあき  
ちのちの瓢 形あきあき  
ちのちの瓢 形あきあき  
ちのちの瓢 形あきあき  
ちのちの瓢 形あきあき

禾 木 南 枝 巴 水 松 一 杉 居

蘭の香やうらやうら  
蘭の香やうらやうら  
蘭の香やうらやうら  
蘭の香やうらやうら  
蘭の香やうらやうら

嵐 外 弄 化 曲 阜

最上の徳やうらやうら  
最上の徳やうらやうら  
最上の徳やうらやうら  
最上の徳やうらやうら  
最上の徳やうらやうら

梅 窓 波 回

花 禁

花を禁ずるの意ありのさかき花禁  
禁をなすは後年あきらむるを  
待てり  
とけり  
一  
村も  
け  
ま  
一  
秋

素行  
禁人  
とら  
在尔  
得取  
良之  
和戎  
千轄  
虚白  
由誓

栂 梗

川  
あ  
凌  
と  
何  
お  
あ  
さ  
又  
穂

卓池  
慈光  
山外  
宇速  
阮芝  
風羽  
錦友  
大栂  
一青  
波

芒

紫苑

山中一掃をよこしつたうふ  
るの程のあふ。青のまぬ花の  
穂をまきと毎日伸るまきま  
を中けのあひまするすれうふ  
細おのうれしては花ふまうん  
ゆましくゆまのゆまうまう  
ゆまうまうまうまうまう

まうまうまうまうまうまう  
伸るゆま伸るからゆままう  
折るゆまゆまゆまゆまゆま  
ゆまゆまゆまゆまゆまゆま

蒼乳 風洞 阜池 茂花 主山 東漢 千強

野菊

名

まうまうまうまうまうまう  
まうまうまうまうまうまう  
まうまうまうまうまうまう  
まうまうまうまうまうまう

まうまうまうまうまうまう  
まうまうまうまうまうまう  
まうまうまうまうまうまう  
まうまうまうまうまうまう

車舎 夷則 倉乳 岳風 里花 悠山 平山 一具



酸

おろ

鬼灯の如く月夜にさるる花を  
あつらひてをさしおきてさるる花を  
酸の香やおろの人のまじり

得花  
夷則  
林曹

風

花

反枝の香を風ひきく風仙の  
花のまじりたるや風仙の

春  
海香

夢  
花

かこもるる池のほとり夢の  
夢のまじりたるや夢の  
一歩の夢をさるる花の  
花のまじりたるや夢の花

抱像  
西妹  
夢帝  
逸淵

以  
花

芦  
花

夢のまじりたるや夢の花  
かこもるる池のほとり夢の  
夢のまじりたるや夢の花  
一歩の夢をさるる花の  
花のまじりたるや夢の花

東流

かこもるる池のほとり夢の  
夢のまじりたるや夢の花  
一歩の夢をさるる花の  
花のまじりたるや夢の花

卓池  
ちん

大橋  
名子  
吉子  
月夜  
千枝

新之

枝刺るむらさきもきくの戸はま  
秋のりの早もささるたぐの  
りの中をて堤の家の花人の  
一村を一つの山をきき  
笑うあーりを歌ひしきくのを  
さあほや 秋をええきまの  
嘆くさあほあられとくのとく  
の庵のふ残葉をてあーおれ  
後川を似合さくも葉をく  
あいのりうんのちもやあの花  
けぬきさ少梅のやや葉の花  
あつた所を葉をさけて海をく

一月  
古葉  
五山  
山年  
石乃  
素作  
徳亭  
荻丸  
宜来

尾花

花壇のふさ地掛ひさう葉の花  
さくせや葉のさくもさくは  
あつた所のさくもさく葉の花  
さうさくもさくもさくさく  
さくのとさくもさくもさく  
啼聲の尾花ありとさくさく  
一りえおれさくもさくもさく  
さくもさくもさくもさくも  
さくもさくもさくもさくも  
風をさくもさくもさくもさく  
新葉をさくもさくもさくも

高枝  
梅意  
林曹  
山外  
千鶴  
大板  
旭洲  
八雲  
藤村  
松刺  
古珠

秋草——尾花のかけ人の声

千鶴

末

赤松の葉とくしつとくまの草

由誓

れ

くらしの草中 罌粟の傍る山草

溶女

鳥

鳥のものをとめてあそぶかきく

英山

本

月の影の赤いひまを鳥くま

五玉

葛

折の風のやむ草まじりて草の裏

九毒

あまの草まじりて草の裏

菊野

梅

娘

くらし干波垣のりくちや梅のま

木木  
旬光

ぬ

あ

あまの草まじりて草の裏

虚白  
浪着  
石洋

以  
七

塘のくし又去きせるふ草か柳  
茅畑の飛くまき見てくま

出年  
相堂  
千鶴

り  
あ

菊の草やるを食んてえちくま  
くまの草やるを食んてえちくま

梅言  
了

木 厚

木厚やおんもさきか花をさう  
木厚の木のひらけり西りん

号見  
幻芝

木 実

おろくしきと思ふぬ木の實を  
葉の戸やあつ実の枝すのふす  
戸ふすこけふぬ風う木のしき

若非  
青圃  
丁知  
漢着

程の

實もあつ實もさる香う程う奉  
さあれ程木を急のこも実う亮

丁知  
一函

菌

和茸やきつとささるさきの上  
ねしけやわいの葉もぬあし  
ささるさきの程ういんさ茸  
ささるさきの木のしきぬさき  
たいの木のまればささる木のさき  
花解るれにささる木のさき

菴礼  
月意  
梅通  
悠  
且松  
完伍

茸 将

茸将やひらけりさきさきの上  
ささるさきのさきさきの菌将  
茸の木のさきさきさきの菌  
ささるさきのさきさきの菌  
ささるさきのさきさきの菌  
ささるさきのさきさきの菌

菴礼  
萬頃  
北亭  
東信

人

里

後葉の中は、秋の深きとき、川  
畔に、花を採ひ、あふや、を造り、  
茶のうり、秋の葉、火に、焼きて、茶  
に、まき、つゝ、栗、あけ、里の、九月、の、  
高き、つゝ、つゝ、果、つ、相、つ、つ、の、舌

年風  
飛葉  
李席  
×  
復物

熟

柿

里子、中、あ、つ、あ、つ、の、熟、柿、あ  
葉、を、交、て、持、律、へ、上、つ、熟、柿、あ

古  
千  
千  
熟

木賊

本、蔵、州、ま、き、つ、つ、の、  
刈、揚、つ、つ、の、あ、つ、つ、木、賊、つ、つ

千  
呂  
千  
熟

葉  
塙

あ、つ、つ、の、あ、つ、つ、あ、つ、つ、つ、つ、つ、  
風、あ、つ、つ、あ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
塙、あ、つ、つ、あ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

英  
山  
指  
山  
可  
熟

草  
紅  
葉

あ、つ、つ、の、秋、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

詠  
同  
波  
文  
岳  
風  
弄  
化  
一  
具



秋

彈

秋  
螢

中崎の如く言中へ又ゆる推る本  
あきやうあ海舟をよ一りその聲  
せやりのよあきやうあ浦ア

嵐外  
鳥雁  
蒼乳

秋のきみその日くしりしり  
斧りあてし樹をよまて以て秋の聲  
あきやうあ海舟をよ一りその聲  
探るてきし秋のあきやうあ  
地やうあきやうあ

卓池  
江月  
西里  
棠功  
東漢

あきやうあ海舟をよ一りその聲  
秋の秋を光るきしりしり

嵐外  
布山

秋

蝶

秋

敗

秋

蠅

あきやうあ海舟をよ一りその聲  
あきやうあ海舟をよ一りその聲  
あきやうあ海舟をよ一りその聲  
あきやうあ海舟をよ一りその聲

嵐外  
沙路  
海虫  
生尔

あきやうあ海舟をよ一りその聲  
あきやうあ海舟をよ一りその聲

嵐外  
素樸

あきやうあ海舟をよ一りその聲  
あきやうあ海舟をよ一りその聲  
あきやうあ海舟をよ一りその聲

大梅  
芝石  
蟻水





竈馬

あぶき

古の竈のちりもあつたなりけり  
あつたなりけり  
あつたなりけり  
あつたなりけり

其山  
夷則  
卓池

竈の煮えたるてあつたなりけり  
あつたなりけり  
あつたなりけり  
あつたなりけり

一具  
其山  
夷則  
三江  
朱溪

あつたなりけり  
あつたなりけり  
あつたなりけり  
あつたなりけり

依芝  
玄子

蟪蛄

蚕

蟪蛄のあつたなりけり

溪高

あつたなりけり  
あつたなりけり  
あつたなりけり  
あつたなりけり

沙路  
水舟  
而后  
とる

あつたなりけり  
あつたなりけり  
あつたなりけり  
あつたなりけり

鳳朗  
得菴  
号古  
由誓

稿せき先

稿を思はばもたれぬたてしき  
人うけしそ及ふもき啼ういふまき  
影の月ハ余影くれくいあす先  
おのゝあけりききくも恋と稿を

杉意  
真直子  
濱吉  
黄山

鯛

日くじしのいりやう松の月  
日くじしやま松伐てくも倍  
日くじしやまきくかを過ぎ声  
日くじしや神を返り鳥の群雀  
日くじしや樹の志をくちりぬる  
世とらぬ秋とまきくくくくく

鹿白  
一嘯  
白桂  
史子  
由誓  
蒼礼

和左里鳥

秋垣りやうやうやうくくくく  
漏くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく

山外  
一幽  
兀阿  
遅流  
茶静  
双居  
由誓

雁

凡ちむ夕りのらんやさくく  
くくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく

梅意  
戸簀  
大梅  
素樸

きりやけのやうなやうに  
とくと来てやうに  
石のやうなやうに  
うしろのやうなやうに  
うしろのやうなやうに  
うしろのやうなやうに  
うしろのやうなやうに  
うしろのやうなやうに  
うしろのやうなやうに  
うしろのやうなやうに

茂権  
阜池  
茶山  
丁知  
春雀子  
太老  
梅石  
林曹  
東澳  
千輅  
而后

鴟

鳥

啄  
本  
鳥

柿のあやうに  
鳥のあやうに  
鳥のあやうに  
鳥のあやうに  
鳥のあやうに  
鳥のあやうに  
鳥のあやうに  
鳥のあやうに  
鳥のあやうに  
鳥のあやうに

波同  
由誓  
遅流  
千輅  
獲物  
鳥也  
茶山  
心阿  
徐全



鹿 笛

一〇

悠吹のきく尺八をきよふのるふ

みどり

麻笥や川のささきをきききき

喜列 葉月

吟のや一葉のふりきききき

梅 露

着た葉のむききききききき

大 板

川をむきききききききき

卓 池

麻のきききききききき

風 朔

月をきききききききき

山 外

音のきききききききき

乙 彦

一のきききききききき

五 後

ののきききききききき

連 山

きききききききききき

春 豊

きききききききききき

水 松

一のきききききききき

若 水

麻のきききききききき

千 巻

又のきききききききき

卓 池

押入のきききききききき

伯 遠

葉のきききききききき

吳 城

ゆのきききききききき

林 曹

きききききききききき

露 谷

九月 盡日

ゆのきききききききき

林 曹

きききききききききき

露 谷



秋の聲は 木々の葉の 落ちる音に  
似たり 空の 雲の 移る影に  
似たり 水の流れの 音に  
似たり 風の 吹く音に  
似たり 人の 心づくしに  
似たり 秋の 色づくしに  
似たり 秋の 味づくしに  
似たり 秋の 情づくしに  
似たり 秋の 思づくしに  
似たり 秋の 夢づくしに  
似たり 秋の 愁づくしに  
似たり 秋の 恨づくしに  
似たり 秋の 怨づくしに  
似たり 秋の 嘆づくしに  
似たり 秋の 泣づくしに  
似たり 秋の 死づくしに  
似たり 秋の 別づくしに  
似たり 秋の 離づくしに  
似たり 秋の 恨づくしに  
似たり 秋の 怨づくしに  
似たり 秋の 嘆づくしに  
似たり 秋の 泣づくしに  
似たり 秋の 死づくしに  
似たり 秋の 別づくしに  
似たり 秋の 離づくしに

梅 竹 山 大 善 大 言 大 梅 九 茶 護 達  
通 宣 叢 梅 桐 警 意 翁 乳 物 宇

秋の 聲は 木々の 葉の 落ちる音に  
似たり 空の 雲の 移る影に  
似たり 水の流れの 音に  
似たり 風の 吹く音に  
似たり 人の 心づくしに  
似たり 秋の 色づくしに  
似たり 秋の 味づくしに  
似たり 秋の 情づくしに  
似たり 秋の 思づくしに  
似たり 秋の 夢づくしに  
似たり 秋の 愁づくしに  
似たり 秋の 恨づくしに  
似たり 秋の 怨づくしに  
似たり 秋の 嘆づくしに  
似たり 秋の 泣づくしに  
似たり 秋の 死づくしに  
似たり 秋の 別づくしに  
似たり 秋の 離づくしに  
似たり 秋の 恨づくしに  
似たり 秋の 怨づくしに  
似たり 秋の 嘆づくしに  
似たり 秋の 泣づくしに  
似たり 秋の 死づくしに  
似たり 秋の 別づくしに  
似たり 秋の 離づくしに

大 笑 風 朗 逸 曲 茶 水 中 史 善 善 見 極  
笑 風 朗 逸 曲 茶 水 中 史 善 善 見 極

麻とびをてりあそびて葉を  
那室の中園寺とて一椽の先  
義堂に我の具足とて一  
冬の中十五秋の一日味  
終む中雷あつる音の  
ふりうつるあはれの中浦の秋  
夕景のふりうつるあはれの中浦の秋  
閑くまき音の中浦の中浦

斗南  
庭  
之  
丁  
赤  
一  
芦  
千

初雪

今人五百題答句集

冬之部

八雲 東溟  
浩僻 千轄

輯校

初雪の中浦の秋  
初雪の中浦の秋  
初雪の中浦の秋  
初雪の中浦の秋  
初雪の中浦の秋  
初雪の中浦の秋  
初雪の中浦の秋  
初雪の中浦の秋  
初雪の中浦の秋  
初雪の中浦の秋

復物  
風朝  
岸  
梅  
菴  
芒見  
麻文  
由哲



蒼々たる松を降てあうらるる  
 たるゆきや若子松の占む所の土  
 和まるとたれあうらや以てなり  
 たるゆきや毎々出づけは隣にお  
 和まると和まるとかゝる新緑身  
 たるゆきや一人日暮り松のまう  
 初雪を和先庭の井石とくく  
 たるゆきや 連つらうといふはこ  
 初雪の葉ゆきよ積ておろし  
 たるゆきや 氷寒たむおもむき  
 和まるとたれあうらや燭るぬ

黄山 洞天 粗文 史千 大鵬 波田 太瑛 逸淵 禾粟 千輅

ゆ 紀

たるゆきやあうら松のまう  
 和のまうや也伐元の跡とく  
 むてるともよまふふと海の上  
 たるゆきやあうら松のまう  
 和のまうや也伐元の跡とく  
 むてるともよまふふと海の上  
 たるゆきやあうら松のまう  
 和のまうや也伐元の跡とく  
 むてるともよまふふと海の上

蒼乳 大松 若舎 花信 松雪 妙路 九紀



ちりつむしやや落ふ床邊の梅  
 二鳥掃く跡に梅の影も  
 大なるや雪のふりや雪の  
 押くもやうに雪のふりや雪の  
 吹くもやうに雪のふりや雪の  
 板のふりやうに雪のふりや雪の  
 井のふりやうに雪のふりや雪の  
 ちりつむしやや落ふ床邊の梅  
 二鳥掃く跡に梅の影も  
 大なるや雪のふりや雪の  
 押くもやうに雪のふりや雪の  
 吹くもやうに雪のふりや雪の  
 板のふりやうに雪のふりや雪の  
 井のふりやうに雪のふりや雪の

双鳥  
 清民  
 井与  
 東田  
 木什  
 雪古  
 祇白  
 茶綠  
 祖々  
 鳳朝  
 東便  
 幸舎

聖吹  
 志  
 紀

ちりつむしやや落ふ床邊の梅  
 二鳥掃く跡に梅の影も  
 大なるや雪のふりや雪の  
 押くもやうに雪のふりや雪の  
 吹くもやうに雪のふりや雪の  
 板のふりやうに雪のふりや雪の  
 井のふりやうに雪のふりや雪の  
 ちりつむしやや落ふ床邊の梅  
 二鳥掃く跡に梅の影も  
 大なるや雪のふりや雪の  
 押くもやうに雪のふりや雪の  
 吹くもやうに雪のふりや雪の  
 板のふりやうに雪のふりや雪の  
 井のふりやうに雪のふりや雪の

千結  
 逸淵  
 助宣  
 丁念  
 大梅  
 東信

初時雨

降るけの言ふとくくくおきくれ  
あつた火の細いおきしお時  
雨のそよ風をうけしをうけし  
おしんくくおきしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを

抱像 葉丸 風韻 素標 杜鰲 杜有 梅宅 窮年 由誓 承月 梅塢

一 禮

ゆき降るあつたをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを  
おきしをうけしをうけしを

車池 素亭 山外 照星 由誓 一洋 史子 芸儀 得兼 馳岳 二雲

ふらふら果をつらふらふらふらふら  
猪人の忠をうらふらふらふらふら  
志をうらふらふらふらふらふら  
人なうらふらふらふらふらふら  
一ふらふらふらふらふらふら  
元ふらふらふらふらふらふら  
志をうらふらふらふらふらふら  
すなふらふらふらふらふらふら  
ふらふらふらふらふらふらふら  
下ふらふらふらふらふらふら  
志をうらふらふらふらふらふら  
海ふらふらふらふらふらふら

五海  
志を  
雨を  
海を  
海を  
鳥津  
松竹  
年を  
海を  
志を  
一具  
大梅

露 露

ふらふら果をつらふらふらふらふら  
猪人の忠をうらふらふらふらふら  
志をうらふらふらふらふらふら  
人なうらふらふらふらふらふら  
一ふらふらふらふらふらふら  
元ふらふらふらふらふらふら  
志をうらふらふらふらふらふら  
すなふらふらふらふらふらふら  
ふらふらふらふらふらふらふら  
下ふらふらふらふらふらふら  
志をうらふらふらふらふらふら  
海ふらふらふらふらふらふら

一月  
志を  
月夜  
風朝  
杜若  
菊乳  
雲山  
松竹  
志を  
海を  
千粒

霽

霰

細雪の裾をうらむ ことごとく如き  
 向ふきやわやわ明の如くも  
 たちよる程降る日のさびたを  
 ともけけけけけけけけけけけけ  
 水底まうまう子降るもさびれ  
 ことごとくやわやわやわやわやわ  
 見ゆるわやわやわやわやわやわ  
 葉枯れやわやわやわやわやわ  
 ことごとくやわやわやわやわやわ  
 梅の口やわやわやわやわやわ  
 ことごとくやわやわやわやわやわ

脚衣 于血 紅葉 白竹 赤松 一月 伊勢 葉子 着了

霜

霜のやわやわやわやわやわやわ  
 霜のやわやわやわやわやわやわ  
 霜のやわやわやわやわやわやわ  
 霜のやわやわやわやわやわやわ  
 霜のやわやわやわやわやわやわ  
 霜のやわやわやわやわやわやわ  
 霜のやわやわやわやわやわやわ  
 霜のやわやわやわやわやわやわ  
 霜のやわやわやわやわやわやわ  
 霜のやわやわやわやわやわやわ  
 霜のやわやわやわやわやわやわ  
 霜のやわやわやわやわやわやわ

黄山 松隣 卓池 草枝 梅窓 蕪光 玉枝 手籠 抱像 雲雲 大梅









冬 至

神 送

美しき有暇の冬にわが都  
栢の葉人とり先子冬にまゝ  
承下とありし冬にのり田に  
小福とまゝや冬に海に  
早しとまゝ人まゝ冬に  
とく歌をとおす冬に  
冬に神をまゝ冬に

大 栢  
以 葉  
茶 新  
煎 魚  
蓬 宇  
夜 志  
破 額  
護 物  
算 處  
本 信

神 迎 留 守

夷 講

田の中の花の一本や神のるる  
めしとて一箱のや神のるる  
懸の餅を神のやちり神のるる

正 向  
高 少  
冬 小

神迎をぬ人も出さるる  
冬後の花より別あり神むる

逸 淵  
葉 新

冬夜の歌をのりや神のるる  
かゝる石の中持のりや神のるる  
神のるるを神のるる  
け挽く泡のるる

沙 路  
一 片  
光 外  
傳 年

子  
燿  
心

吹  
草  
祭

揺るけり切りあしして夷海  
桑の合とけけりあしして夷海  
明のとき船のそぬしあしして夷海  
世より経れしあしして夷海

あしして夷海  
あしして夷海  
あしして夷海  
あしして夷海

あしして夷海  
あしして夷海  
あしして夷海  
あしして夷海

淡  
我  
阜  
池  
大  
梅

復  
物  
旬  
光

逐  
涼  
禾  
木  
千  
粒

神  
楽

里  
音

十  
歌

あしして夷海  
あしして夷海  
あしして夷海  
あしして夷海

あしして夷海  
あしして夷海  
あしして夷海  
あしして夷海

あしして夷海  
あしして夷海  
あしして夷海  
あしして夷海

あしして夷海  
あしして夷海  
あしして夷海  
あしして夷海

由  
笛  
風  
朗

一  
具  
素  
秋  
万  
像

風  
朗  
古  
福  
任  
類  
茶  
孫

達 忌

湯をぬる湯を控へてや秋の  
辭かき結つてあつて十秋の  
伎節より思ひたぬ十秋の  
一むしあつて十秋の志すい  
ゆきあつて十秋の秋の  
お娘も人をもめたの十秋の  
連うまあつて十秋の秋の  
甲斐の島連うまあつて  
たふすあつて十秋の  
湯をぬる湯を控へてや秋の

田風 弄化 得蓋 正依 一具 抱儀 沙路 器堆 李曜 一肖

余 講

忌 巻

常よりあつて十秋の  
湯をぬる湯を控へてや秋の  
湯をぬる湯を控へてや秋の  
湯をぬる湯を控へてや秋の  
湯をぬる湯を控へてや秋の  
湯をぬる湯を控へてや秋の  
湯をぬる湯を控へてや秋の  
湯をぬる湯を控へてや秋の  
湯をぬる湯を控へてや秋の  
湯をぬる湯を控へてや秋の

南枝 由誓 素行 卓池 千結 荃乳 一具 護物 高了 葛山 千粒

取 裁

佛 名

鬼子角子日の意くれては取裁  
行のしゆる意をくくはし(出)  
身りおふ身り又くくはし取裁  
あふは清くもつく身りはくく裁  
杖拿り戸口のせしし身りは(出)

柳の葉をまつむ人まははは名  
木のまをくくくく時めくくはは名  
やみくく隣人のししはは名  
徳もくくもくくもくくもくく和

由 普  
祖 郷  
三 岳  
得 菴  
東 漢

護 物  
多 山  
而 后  
山 骨

鉢 大

念 佛

片のけくく鉢多ゆくく鉢叩  
まはくくれもやくたりはくく鉢叩  
まきくくくくくくくくくく鉢叩  
味いれくくくくくくくくくく鉢叩  
まきくくくくくくくくくく鉢叩  
西のくく月ハ落るまをくくくく  
あふんくく鉢叩

あふんくくくくくくくくくく鉢叩  
大くくくくくくくくくく鉢叩  
片のけくくくくくくくくくく鉢叩  
譯のくくくくくくくくくく鉢叩

松 什  
由 誓  
多 山  
東 漢  
千 輪

鶴 林  
雀 叟  
尊 阿  
史 千

大  
篠

落葉

嫁いりの通しは物言言仁  
其のまは河豚のなまれを言律  
新すくわし一蹴くう言言仁

三枝  
松一  
護物

凡走ふふあたふうう大河豚  
是のの。物言らうや大河豚

逸淵  
羽人

掃るを満し言言言言言言  
二日あやう一房言言言言言言

荻丸

涌上る温る言言言言言言言言  
ふハ言言言言言言言言言言言

其山

言言言言言言言言言言言言  
言言言言言言言言言言言言

冰而  
其山

う言言言言言言言言言言言言  
ひ言言言言言言言言言言言言

卓池

掃出言言言言言言言言言言言  
汲言言言言言言言言言言言言

一具  
蛙水

言言言言言言言言言言言言  
言言言言言言言言言言言言

雨翠  
于瓶

木の葉傳言言言言言言言言  
散言言言言言言言言言言言言

松室

言言言言言言言言言言言言  
言言言言言言言言言言言言

沙磧

言言言言言言言言言言言言  
言言言言言言言言言言言言

海芝  
外

木  
葉

冬木立

吹くくをらるる木の葉の葉を  
掃念ふぬる程ある木のそら  
くつりきり柳の葉る木の葉を  
落きくぬるあき柳ふ木の葉を  
落くちよきを心をもある木の葉を  
群うさ月くこれい葉味と  
垣結つてまゆわく柳を  
谷川の流るるまゆわく柳を  
まゆわく柳のまゆわく柳を  
まゆわく柳のまゆわく柳を

柳の  
木柳  
藤山  
葉礼  
木信  
速閑  
之岳  
牛鹿  
声夜  
左南

風

まゆわく柳のまゆわく柳を  
風やまゆわく柳のまゆわく柳を  
まゆわく柳のまゆわく柳を  
まゆわく柳のまゆわく柳を  
まゆわく柳のまゆわく柳を  
まゆわく柳のまゆわく柳を  
まゆわく柳のまゆわく柳を  
まゆわく柳のまゆわく柳を  
まゆわく柳のまゆわく柳を  
まゆわく柳のまゆわく柳を

由誓  
岳年  
夷則  
多あ  
悠し  
杜響  
山馬  
葉山  
護物  
柳音  
祖文





枇把の葉

枇把の葉は、冬に最もよく見られる。葉の形は、長卵形で、先端が鋭く、基部は楔形である。葉の裏面に、細かい毛が生える。葉の縁は、鋸歯状である。葉の大きさは、長さ約10cm、幅約5cmである。葉の色は、冬になると暗緑色になる。葉の裏面に、冬になると白い粉が積もることがある。葉の裏面に、冬になると白い粉が積もることがある。

五枝 千枝 由誓 倍し 右走 桐堂 一具 枇把

山茶花

山茶花は、冬に最もよく見られる。花の形は、丸形または五角形である。花の色は、冬になると暗紅色になる。花の大きさは、直径約5cmである。花の裏面に、細かい毛が生える。花の縁は、鋸歯状である。花の大きさは、直径約5cmである。花の色は、冬になると暗紅色になる。花の裏面に、細かい毛が生える。花の縁は、鋸歯状である。

吹雪 抱像 大梅 而后 丁知 卓犬 簾菴 一具 兩堂 幸舎 千枝





松竹

十冬より松竹のふりてくれすま  
あつ穂のひらきまき竹松芭

麻文  
悠々

茶花

茶の花の静や別な香を  
茶の花のわらわあつ偶依り  
茶の葉の一枚ふりて  
茶の葉や茶の葉のよふも  
あつてぬふりて茶の葉

由誓  
洞天  
林曹  
若非  
万葉

茶の葉や茶の葉のよふも  
うんたのふりて茶の葉  
茶の葉や茶の葉のよふも

茶花  
由誓  
後推

寒菊

寒菊の葉や茶の葉のよふも  
うんたのふりて茶の葉  
茶の葉や茶の葉のよふも  
茶の葉や茶の葉のよふも  
茶の葉を扱ハハハハハハ

寒菊  
漢岳  
知岳  
麓カ  
千枝

石菖蒲

石菖蒲の葉や茶の葉のよふも  
あつてぬふりて茶の葉  
茶の葉や茶の葉のよふも  
茶の葉や茶の葉のよふも  
茶の葉を扱ハハハハハハ

一育  
純丸  
護劫  
千枝

枯蓮

枯して風もかからず蓮の葉も  
枯蓮より残る葉もつらや露の朝

由 詩  
在

うれ 芦

枯草やまのちのちれはあつた  
うれやや吹れあつたの風の音  
吹まてあつた葉の枯葉うれ

風 湖  
芦 外  
草 池

冬 冬 冬

冬枯やまのちのちれはあつた  
冬枯やまのちのちれはあつた  
冬枯やまのちのちれはあつた

一 函  
一 映

冬 冬 冬

冬枯やまのちのちれはあつた  
冬枯やまのちのちれはあつた  
冬枯やまのちのちれはあつた

由 詩  
看 了

草 枯

草枯やまのちのちれはあつた  
草枯やまのちのちれはあつた  
草枯やまのちのちれはあつた

大 勝  
一 具  
千 秋

冬 山

冬山やまのちのちれはあつた  
冬山やまのちのちれはあつた  
冬山やまのちのちれはあつた

万 頃  
白 起

枯 整

枯整やまのちのちれはあつた  
枯整やまのちのちれはあつた  
枯整やまのちのちれはあつた

由 誓  
蒼 丸  
悠 山



葛 麦刈

おこのを敷くまゝして大根川  
ぬくきりや新水くすし大根川

そえ  
干熟

そは刈ハ一日休りあうりま  
おそ刈や淹つ又ゆる赤とんち

山外  
年緒

干

菜

初一菜の百まぬ一俵の灯  
佳しきや初穂登のへし干菜  
赤もまゝかまゝまゝ初有菜  
干菜汁ニ煮つる干菜の味

卓池  
西堂  
梅山  
東漢

葱刈や畑ハ月あす干菜うを

少崎

葱

去葱よりまゝうりうり魚の棚  
ひりひり二反たけあり葱をま  
その毛も揃へるある根除系  
喰ふりたまえんらんあゝい葱  
多ゆきゆりもさる葱うら

梅令  
仙見  
先外  
青可  
干熟

麦

蔣

麦蔣中一人日暮り山の裾  
芥火の消るまでと麦を蔣  
麦蔣よりすき給ふや小餅汁  
麦蔣や西日をよける焚き  
麦すくとまゆふ山の洞窟

史干  
禾木  
氷角  
沙鷗  
干輅







鷺

沖の表のまことやや鴨の夢  
きくくもさゆりやや岸の鴨  
鴨あややねのまきりひたす  
うたを流さるる鴨の表をさる  
竹のせいで先あらぬ池の鴨  
ぬりくと鳥さうらふ鴨の羽  
はのりの備わらして鴨さわく  
うけりもさるるにぬをのまひた  
さるるをさるるにぬをのまひた  
さるるをさるるにぬをのまひた  
さるるをさるるにぬをのまひた

木 沙 表 依 一 在 梅 相 得 風  
木 崎 白 回 依 一 具 法 在 梅 相 得 風

浮 寝 鳥

竹のまきりもまきりぬをの流れ流  
まきりまきりぬをの流れ流  
まきりまきりぬをの流れ流  
まきりまきりぬをの流れ流  
まきりまきりぬをの流れ流  
まきりまきりぬをの流れ流  
まきりまきりぬをの流れ流  
まきりまきりぬをの流れ流  
まきりまきりぬをの流れ流  
まきりまきりぬをの流れ流

水 雨 奈 由 年 未 逸 沖 竹 宜  
水 雨 奈 由 年 未 逸 沖 竹 宜

木 鬼

冬 魁

みくろくまきやしくもたまる

木

木鬼のまゝや毎晩おるー枝

卓池

木鬼のまゝや星野のいあらやん

露泉

みくろくまきやしくもたまる

白地

木鬼のまゝや月さきたる時

清民

木鬼のまゝやしくもたまる

酒天

木のまゝやしくもたまる

仙名

木のまゝやしくもたまる

祖名

木のまゝやしくもたまる

一函

木のまゝやしくもたまる

丈例

木のまゝやしくもたまる

丈例

大

の

鷹

野

押らまゝぬるまゝおるやその魁

一毛

區しや鷹のりおを新の身

風朝

木のまゝ吹風のまゝや鷹の身

万頃

鷹のまゝやしくもたまる

晨支

鷹のまゝやしくもたまる

史子

鷹のまゝやしくもたまる

梅香

鷹のまゝやしくもたまる

由菊

鷹のまゝやしくもたまる

由菊

鷹のまゝやしくもたまる

由菊

鷹のまゝやしくもたまる

由菊

鷹のまゝやしくもたまる

由菊

鷹のまゝやしくもたまる

由菊

鷹のまゝやしくもたまる

由菊

鷹のまゝやしくもたまる

由菊

鷹のまゝやしくもたまる

由菊

鷹のまゝやしくもたまる

由菊

鷹のまゝやしくもたまる

由菊

鷹のまゝやしくもたまる

由菊

鷹のまゝやしくもたまる

由菊

鹿の犬をよけて海を如里の犬

惟草

さしつらうもあけぬあき

鹿

さうしう新餅持ひぬ暗あき

風

んさうとゆふもくぬあき

鹿

けさきうてきさきとちか暖あき

雀

たあくとさうりよぬ暖あき

越

あまのさきよめとすあやぬあき

越

あまのさきよめとすあやぬあき

越

あまのさきよめとすあやぬあき

越

あまのさきよめとすあやぬあき

越

夜興引

あまのさきよめとすあやぬあき

一

逐鳥

あまのさきよめとすあやぬあき

茶

梅

あまのさきよめとすあやぬあき

逸

鯨突

あまのさきよめとすあやぬあき

鯨

網代

あまのさきよめとすあやぬあき

由

守

あまのさきよめとすあやぬあき

品

罨

つら戸の何所にもあつた  
あつた中十載をわけて  
春中より月のさうり  
返るをたふさふて細代舟  
川舟の中の方人あつた  
後判てあつて入遣ぬ細代舟

罨  
一具  
千載

罨をあつた  
罨の棹のさうり

一具

生海氣さく  
法てあつた

罨

生海氣

切味もさうり  
あつた  
あつた  
あつた

耕雲  
由誓  
可大  
復物  
千載

鐺

坊の鐺  
あつた

批身  
幸舎

河豚

あつた  
あつた  
あつた

梅  
相儀  
五本

子あしをいふ年此をふくの友  
存らるるを掃ておんきや河縁の福  
河縁とのあつて方縁を覚えん  
ふく管ていさくれりて別れり  
あつてりあのもあつて河縁け

洲堂  
卓池  
松竹  
風朔  
由菊

鮫 躰

鮫縁の料理をいふを鮫縁  
鮫縁中 廿あつての買をいふ

復物  
新林

乾 鞋

鞋をいふり子いせれり  
乾鞋中 月とあつてはしりて

逸淵  
可村

之 喰

喰をいふりていふの喰  
喰をいふりていふの喰  
喰をいふりていふの喰  
喰をいふりていふの喰  
喰をいふりていふの喰

徐全  
夜照  
應知  
大極  
東漢

法 心 才

法をいふりていふの法  
法をいふりていふの法  
法をいふりていふの法  
法をいふりていふの法  
法をいふりていふの法

鳳朗  
沙鷗  
密年  
一具  
呂川  
石額

舞の音の空をうらやまひついで  
酔ふはめはつたては吐きぬき  
月うぬくし一軍のまきし船の舟  
帯解し風呂の湯すらすむさき  
曙の身をまきてふくまきさく  
梅打りしむらもあつぬきさ  
まきくれいふのまきさき遠いより  
熱の干ぬり熱ともまきさき  
日のさしし一もまき一極のうら  
まき二のまきをまきあやまき  
鈴のまきつ決まつけてまきまき

岳風 助宣 其山 比古 卓池 彫居 卓節 梅宅 千旅 由誓 荻礼

冬 簞

会

折ふくまきもくくくくくくく  
冬あまうくくくくくくくく  
鈴のまきつ決まつけてまきまき  
梅の子まき熱の出まきさき  
菜の一抱まきあやまきまき  
白鼻まきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまき  
刷りまきまきまきまきまき  
冬あまうくくくくくくくく  
あやまきまきまきまきまき  
くくくくくくくくくくくく

了 祇白 一具 一肩 我竟 梅宅 氷私 而后 千旅 卓池 相付





袋

巨 楳

袋のつくりかた

袋

袋のつくりかた

袋

袋のつくりかた

袋

袋のつくりかた

袋

袋のつくりかた

袋

袋のつくりかた

袋

袋のつくりかた

袋

火

火のつくりかた

火



か 冨

まりのひよひをりよかを并ききり  
かひしきやよりのよきしりきり  
えいしきやよりのよきしりきり  
かのもよや長列しきりよか

一具 素因 ね海

口 切

りややよりのよきしりきり  
りややよりのよきしりきり  
りややよりのよきしりきり

一具 相臣 能力

言 楕

りのひよひをりよかを并ききり  
えいしきやよりのよきしりきり  
かのもよや長列しきりよか

由誓 偏改 梅二

髪置

くくおまきよ梅の兒若も袴うき  
髪置きりし神保つや乳母うき

一具 回

袴

袴きやよりのよきしりきり  
えいしきやよりのよきしりきり  
かのもよや長列しきりよか

梅を 豆光 和村 戸頃

看

萩之き凡そく凍る坂うき  
凍る坂のきききききききき  
きききききききききききき

一育 直来 琴水

凍





炭

山外  
千粒  
卓池  
松了  
松空  
青可  
松五  
一具  
千粒

山外  
千粒  
卓池  
松了  
松空  
青可  
松五  
一具  
千粒

冬乃月

一肖  
卓池  
林雪  
名香  
風胡  
悠一  
赤松  
千粒  
松空

一肖  
卓池  
林雪  
名香  
風胡  
悠一  
赤松  
千粒  
松空

寒月

寒の  
こち

寒  
入

寒月や連くして出る庭の  
寒月や庭下指ふ袖の門  
寒月や下れはあつて道  
寒月や杖はあつても教  
枯萩のききしありき寒の  
杖をききし寒のありき寒の  
風はあつて吹きよ入月  
寒の江戸づる吹く  
ゆきつら降る

雪 風 葉 草 池 山 豊 林 雪

寒

敵

寒

垢  
離

臘  
八

寒月ややまのまはるひ  
戸はあつてあつて寒の  
寒月やあつてをききし  
ん寒のまはるあつて  
寒垢離の思ひ切たる  
久あつてのふれはあつて  
寒月やあつてあつて  
寒月やあつてあつて  
寒月やあつてあつて

虚 戸 楽 素 宜 千 多 一  
白 頃 高 柳 来 枝 百 具

脛

脛まけしきぬらぬ毎の日の香  
以てはををくくも思ひや晴れ地  
ゆんまの馬鹿解くもあうらう

惟草  
文昇  
小菘

冬の日

あうらや小よりつけそあま  
終ををくくくくくくくくく

二丘  
瑠里

冬

あめりしきぬらぬ毎の日の香  
以てはををくくも思ひや晴れ地  
ゆんまの馬鹿解くもあうらう

風船  
卓池  
山外

冬夜

あめりしきぬらぬ毎の日の香  
以てはををくくも思ひや晴れ地  
ゆんまの馬鹿解くもあうらう

板字  
漢物

冬

あめりしきぬらぬ毎の日の香  
以てはををくくも思ひや晴れ地  
ゆんまの馬鹿解くもあうらう

知岳  
素樸  
小柯

冬

あめりしきぬらぬ毎の日の香  
以てはををくくも思ひや晴れ地  
ゆんまの馬鹿解くもあうらう

由誓  
一具  
史河  
去子

冬

あめりしきぬらぬ毎の日の香  
以てはををくくも思ひや晴れ地  
ゆんまの馬鹿解くもあうらう

去子





餅搦や門田の石の列一亭 一果

餅 搦

素人多く有例子まきや解還 水青  
まよきや有例一うり解むん 梅麻

志 配

名取り解してまき有るるを 逸閑  
針匠志のまきや一や衣なり 一其

おろそろそまきや買ふるうり 唯草  
海らまきまきや解るる衣配 干秋

鬼ハ外わたりまきハいそれう 風洞  
諸以まきまきや山家の鬼中一 干奥

節 分

節分セトの年とぬや柳のまき 漢壽  
まきまきや有例まきハいそれ 得蓋  
節分れてまきまき一りり鬼ハ外 末匠

厄 拂

厄まきまき一掃まきまきまき 一果  
碎しまきまき一掃まきまき 意毛

歳 の 市

とりの市まきまき一掃まきまき 松石  
まきまきまきまきまきまき 天洞  
一掃まきまきまきまきまき 由譽  
掃まきまきまきまきまき 末女  
花はまきまきまきまきまき 途旅

年  
樵

年  
忘

四休のちりけりきやとりの市  
いそかきこ中をさぬむや年の市

一具  
車池

存ふ上谷まきせり年本契  
年本獲て上置り身選

一肖  
吟霞

海老可らるる性や年忘  
山里やる休きてせり年忘  
ふ味も人も思ひ下る年忘  
とくもあらん海くも文り  
海老可らるる性や年忘

風朗  
省共  
毎上  
木木  
蕙山

行  
年

見  
出

以年やとせりま世祀の宴の形  
ゆくとや又知るまよまきさる  
以年の海ゆりまや後  
ゆくとや後の上の根の記  
以年やとるまよま世の榮  
ゆくとや海探りままのゆく  
以年やとるまよま世の外中入  
以年やとるまよま世の市  
以年やとるまよま世の市  
以年やとるまよま世の市

岱年  
出風  
大鵬  
海同  
海同  
海同  
大鵬  
大鵬

去待

大やうに去待の雪の白みうら  
去待や去待の雪の白みうら  
去待や去待の雪の白みうら  
去待や去待の雪の白みうら

去待  
去待  
去待  
去待

去近

去近のつらきあはれうら  
去近のつらきあはれうら  
去近のつらきあはれうら  
去近のつらきあはれうら

去近  
去近  
去近  
去近

去掛

去掛のつらきあはれうら  
去掛のつらきあはれうら  
去掛のつらきあはれうら  
去掛のつらきあはれうら

去掛  
去掛  
去掛  
去掛

去六十二日

去六十二日のつらきあはれうら  
去六十二日のつらきあはれうら  
去六十二日のつらきあはれうら  
去六十二日のつらきあはれうら

去六十二日  
去六十二日  
去六十二日  
去六十二日





とくをうむら別あり海と山  
 舟用あるり此のころうたこと  
 昭のあのみを隣の垣ひとく  
 ありききる庭や早や年任を  
 まを遠くとも買ふともまを  
 米吳  
 七を  
 万久  
 一守  
 梅室

江戸本石町十軒店萬笈堂英大助藏版俳書目録

○類題之部

俳諧發句五百題 春秋盛白雄房撰

小本二冊

同 新五百題 田喜庵護物撰

中本二冊

同 新々五百題 全撰

全二冊

同 名所千題集 全撰

全三冊

同 今人東風流 洞海舎涼谷撰 一具庵一具校

全二冊

同 十万句集 全撰 全校

全四冊

同 故人五百題 松露庵撰

小本二冊

同 續故人五百題 一具庵一具撰

全二冊

類聚 八采園家松撰

中本二冊

今人五百題 八雲東溟輯 涉壁千輪校

小木二冊

此書ハ古人五百題子ありて今迄方ハいふに不及なり其書ハ古の幾多あり余誦を爲る時依り一麟不見ありしを思生本久しきり他刊の古

類題

中本二冊

古今撰 蕪庵蟹守撰

全一冊

新類題 六合庵万里輯

全二冊

萬題集

名題砂子 冬至庵庫年輯

全四冊

世古古集ありて古今の事ありて此書ハ萬題集を以て其書ハ古の幾多ありて今迄方ハいふに不及なり其書ハ古の幾多あり余誦を爲る時依り一麟不見ありしを思生本久しきり他刊の古

同 狹叢集 仁多居確嶺輯

小木四冊

俳諧田毎の日 桃隣大人開

全一冊

同 言笛集 錦舎志柳編 笠栖志行校

横本二冊

今人發句集 禾木園収輯

全二冊

四季發句帳

全一冊

白話七五三 艸丸大人輯

全一冊

○假名遣物

全一冊

万葉用字格 春登上人撰

全一冊

對照假字格 長野美波田大人撰

全一冊

音便假字格 春登上人撰

全一冊

○句集之部

全一冊



嵐雪句集 一稱玄峰集

全二冊

其角句集 坎窩久藏撰

小木二冊

蓼太句集

全六冊

吏登句集

全一冊

巢兆句集

全一冊

完來發句集

全二冊

梅翁宗因發句集

小木二冊

太無發句集

全一冊

存義發句集

全二冊

獅子賦發句集

全一冊

柳居發句集

全一冊

糗糒瓶 甲斐州丸糸之

全一冊

葛里句集 遠白口書

全一冊

護物七部集

小木二冊

乙二七部集

全二冊

饒舌錄 元木綱大人著

全二冊

三吟未來記

全一冊

俳諧寐志 春秋庵白雄著

全三冊

今七部集 冬至庵康年撰

全二冊

今人附合集 永木園校輯

全四冊

芳草集 同

芦のひかり 田喜庵輯

○季寄之部

戀の朶 葎雪庵北元著

俳諧手挑灯 一名俳諧初心手引草

同 掌中小本

俳諧袖鏡

季寄便覽

のこしひま

俳諧通言

全二冊

全一冊

小本二冊

中本二冊

全一冊

寸珍一冊

一枚撮

横本一冊

小木一冊

○文之部

新編俳諧文集 あつらひの文をいりむ

全一冊

俳諧變躰一覽

両面一枚撮

袖定規 表俳諧定坐変体之図

七秋集その外古語俳諧の变化の程度を言明すものありしむ  
ては凡俗の自注を一目にえたりしむ

俳諧礎

一折

○掌中寸珍物 海島寸珍物集

掌中五百題初編

集艸初編

同 二編

集艸二編

三編

芭蕉發句集

其角發句集初編

二編

三編

嵐雪發句集初編

二編

乙由發句集

夢太發句集初編

二編

新五百題初編

二編

三編

古今撰

猶追々出刻

集州三

集州四

集州五

集州六

集州七

集州八

集州九

集州十

集州十一

集州十二

集州十三編

集州十四編

集州十五編

集州十六編

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同

五十一

五

日本書紀

西行

天保十二年

京都寺町通松原瓦

勝村 治右衛門

寺町通二條下

野田 治兵衛

心齋橋北久太郎町

河内屋 喜兵衛

芝神明前

岡田屋 嘉七

中橋廣小路

西宮 弥兵衛

日本橋通二丁目

小林 新兵衛

同所

山城屋 佐兵衛

同壹丁目

須原屋 茂兵衛

同四丁目

同佐助

淺州茅町二丁目

同伊八

本石町十軒店

英大助

三都

發行

書林

